

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 緑丘 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学)

教科に関する調査(国語、数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学)の結果

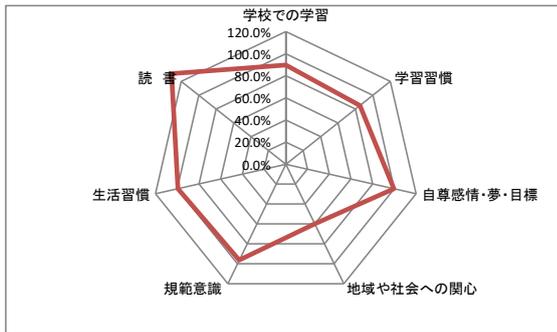
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	8.8	55
全国	9.0	65	9.1	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国と比べて、話す・聞く能力はやや高いが、書く能力や読む能力に関してはやや低い。全体として、文章を読み、そこから考えることが苦手の傾向にある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	話す・聞く能力話合いの話題の方向を捉えたり、質問の意図を捉える問題。文脈に即して漢字を正しく読む問題。	下回っている
	努力が必要な問題	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題。	

数学	全体的な傾向や特徴など	全国と比べて、数量や図形などについての知識・理解は同程度だが、数学的な技能が低い。全体として、数学的な表現を用いて説明したり、数学的に説明する問題に無回答が多く、苦手意識をもつ生徒が多い傾向が見られる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取る問題。	下回っている
	努力が必要な問題	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

全体的に全国平均と同等か若干下回る状態である。グラフにおいて、地域や社会の関心が低い傾向が見られるが、これはコロナ禍における地域行事自粛の影響も考えられる。また、読書を毎日している生徒が多く、読む能力の向上に伴い、物事を多面・多角的に考えられるようになることが期待される。課題としては、学校での学習、学習習慣が低いことから、学習に関して学校と家庭が連携して取り組んでいくことが求められる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

各教科の授業においてGIGA端末を有効的に活用することで、基礎学力の定着とともに、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。学びの軌跡として、各教科において掲示物を充実させることで、生徒の学習意欲を高める。SDGsを軸とした学習を通して、視野を広くもち、地域や社会とつながって取り組んでいけるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

全学年共通の「midorinノート」を活用し、学校と家庭で連携していきながら、家庭学習の充実を図っていく。また、本年度より、生徒会を中心に「midorinノートコンテスト」を開催し、「学ぶことは真似ることから」をテーマに、各学年フロアに自己推薦されたノートを展示して、自主学習の参考になるようにしている。